

本件は京都市交通局から京都市政記者室宛にもご案内しています。

## NEWS RELEASE



報道関係者 各位

2024. 9. 4  
<配信枚数4枚>

**京都市交通局×立命館大学映像学部 社会連携プログラム  
「市バスへの大型手荷物持ち込み抑制」 & 「市バス通学フリー定期券」  
PR映像が完成**

9月9日（月）から四条駅および京都駅のデジタルサイネージに掲出

立命館大学映像学部（以下、映像学部）では、京都市交通局との連携を通じて、映像学部の学生がPR映像4作品を制作しました。これらの作品は、9月9日（月）より順次、地下鉄烏丸線四条駅北改札口および京都駅コトチカ広場のデジタルサイネージに掲出されますので、お知らせいたします。

映像学部では、企業や学外機関と連携し、具体的な目標や目的の達成を目指すコンテンツの共同開発や共同研究を行う実践型科目「社会連携プログラム」を設置しています。京都市交通局との連携プログラムは2017年4月に開始し、今年で8年目を迎えます。同プログラムでは、学生たちが15回の授業を通じて、市バス・地下鉄のPR映像の企画立案から制作、そして社会への発信まで一貫して取り組んでいます。

今回は「市バスへの大型手荷物持ち込み抑制」および「市バス通学フリー定期券」のPRをテーマにした映像を制作しました。学生たちの学びの成果が詰まった、創意工夫あふれる各作品に、ぜひご注目ください。

### 記

放映開始日：2024年9月9日（月）以降順次

放映場所：(1)地下鉄烏丸線四条駅及び京都駅のデジタルサイネージ※

※四条駅は北改札口、京都駅はコトチカ広場（中央1改札口の北側）に設置しています。

(2)京都市交通局公式「YouTube」

URL: <https://www.youtube.com/channel/UCWWJc2s88DRmg25lyK8JyHw>

映像内容：別紙参照

制作者：映像学部開講科目「社会連携プログラム」受講生 計20名

以上

本リリースの配布先：京都大学記者クラブ

●取材・内容についてのお問い合わせ先

立命館大学映像学部事務室 担当：三浦 TEL. 072-665-2071

別紙

1. PR映像について

映像内容（各動画 30 秒）

(1) A班の作品 「市バスへの大型手荷物持ち込み抑制」

【制作者】 <sup>オウカク</sup> WANG Xiaxuさん、<sup>チンヒンヨウ</sup> 河村 朱莉さん、<sup>アリス</sup> 曾田 涼平さん、CHEN Binyeさん、A Lisiさん



★制作者コメント

・幅広い国籍・年齢層の方にわかりやすい内容にすることを念頭に、ピクトグラムを用いて制作しました。特に、バスから飛んで行った荷物がロッカーに入るシーンを印象的なアニメーションにすることで「バスから大型荷物を減らす」という意図が明確に伝わるように工夫しました。

・全体を通して情報過多を避けつつ、映像の上下に二次元コードや検索ワードを配置することで、映像の目的を端的にアピールできたと 생각합니다。

(2) B班の作品 「市バス通学フリー定期券」

【制作者】 草野 雅登さん、三谷 奏斗さん、大林 輝市さん、前川 織音さん、米田 理人さん



★制作者コメント

・ターゲットを明確に意識し「気軽にバスに乗ることができる」という京都の大学生共通のベネフィットで市バス通学フリー定期券の魅力アピールできるように制作しました。

・気軽にバスに乗ることを「ちょい乗り」というワードでまとめ、親しみやすさを重視し、大学生が共感しやすい「ちょい乗り」シチュエーションを、無音声のデジタルサイネージでも伝わりやすいメッセージアプリ形式から始まるアニメーションで表現しました。

### (3) C班の作品 「市バスへの大型手荷物持ち込み抑制」

[制作者] 松原 紗和さん、平野 優月さん、鈴木 結理さん、<sup>ハン エキブ</sup>PAN Yiwonさん、田畑 由衣さん



#### ★制作者コメント

- ・実写映像で、観光客に向けた大型手荷物持ち込み抑制に関するPR動画を制作しました。
- ・大型手荷物がバス車内に増え困惑する乗客が、手荷物預かりセンターに荷物を預けることでバス車内にゆとりができ、手ぶら観光を楽しむという様子を撮影しました。
- ・観光客が、大型手荷物をバスに持ち込まないほうが観光をより楽しめるということを、身をもって感じてもらえるような映像にしました。

### (4) D班の作品 「市バス通学フリー定期券」

[制作者] 石井 虹冴さん、柴田 陽さん、中島 朋也さん、金谷 元喜さん、藤本 壮さん



#### ★制作者コメント

- ・市内中心学生フリー定期券は大学生にとって身近で便利な存在ということを分かりやすく伝えるために、画面を3分割し、通学時、遊びに行くとき、バイトへ行くときの各3場面において、同一人物が市バスを利用する光景を同時進行で描いた映像作品に仕上げました。
- ・また、ICカードは、小銭を探す手間がなく、スムーズに乗り降りできることを伝えるために、ラストシーンの表情にもこだわりました。

## 2. 立命館大学映像学部について

アート、ビジネス、テクノロジーを総合するアプローチで映像分野における「プロデュース」能力を育成し、社会の活性化と生活の質の向上につながる映像文化を創造する人材の育成をめざす目的のもと、日本で初めて映像に軸をおいた総合大学芸術系学部として、2007年、衣笠キャンパスに開設しました。

## 3. 社会連携プログラムについて

映像学部では、開講以来、実際のコンテンツ開発の現場を授業内で体験し、実践的な知識と技術を習得するために、企業や学外機関と連携して具体的な目標や目的をもったコンテンツの共同開発・共同研究を行う科目『社会連携プログラム』を設置しています。

京都市交通局とは2017年度から連携し、市バス・地下鉄のPR映像を制作しています。この連携事業は、学生の感性によるPR動画の制作と、広告制作過程の体験を通じた学生の実践的な学びを通して、人材育成を目的としています。